



豊かな環境と調和した水害のない地域をめざして

一関遊水地事業紹介



一関遊水地とは？

北上川の中流部・岩手県南部に位置する一関地区は、その地理的特性から古来より水害に悩まされてきました。昭和22年(1947年・カスリン台風)、昭和23年(1948年・アイオン台風)に2年連続で来襲した大洪水では約600名の死者行方不明者を出す未曾有の大水害に見舞われ、戦後間もない一関地区は壊滅状態に陥ったのです。一関遊水地は、このような水害を契機に計画された北上川の治水の根幹をなす一大プロジェクトです。遊水地は、市街地を洪水から守る周囲堤と、中小洪水を防御し、調節効果を増大させる小堤からなり、第1、第2、第3の3つの遊水地で構成されています。一関遊水地は、水害の早期解消はもとより、人々の生活を支え、地域づくりを支援する事業として進められています。

遊水地の役割

1 通常の状態



2 小規模な洪水



3 大規模な洪水



実際の効果は？

平成13年に周囲堤が概成し、平成14年7月洪水では、一関市街地が守られました。

昭和56年8月洪水



平成14年7月洪水



◆◆編集後記◆◆ 9月1日は「防災の日」です。この日を含む1週間を防災週間としてさまざまな国民運動が行われます。皆さんも災害への心構えとして参加してみたいはいかがでしょうか。(よ)